

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】平成28年(2016年)10月1日現在

総人口 55,994人 / 高齢者人口 13,033人 / 高齢化率23.28 %

【圏域の特徴】

豊中市の中心に位置し、阪急豊中駅、岡町駅、曾根駅各駅前の商業地域が広がっています。戦前から高度成長期にかけて開発された住宅街の克明、桜塚、南桜塚各校区、農村地域だった熊野田校区、マンション群や団地を持つ泉丘校区の5校区を担当圏域とし、高齢化率や自治会加入率(71.5～35.0%)に校区間の差が大きく、ニーズは校区により異なります。そのため、各校区の実態に合わせた課題に対する取組が必要です。

センターの取組方針や特徴

地域包括ケアシステム構築に向け、「地域に住む、支援が必要な高齢者を一人も孤立させない」という心構えを持って取り組んでいます。

「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を実現するため、絶えず地域に出向いて、的確に状況を把握し、各校区の特性や強みを活かすことに特に重点的に取り組んでいます。

問題を抱えていても自ら声をあげない、誰からも気づかれぬ高齢者が地域に存在しており、孤立した人をいかにして「きめの細かいセーフティネットを構築」し、逃さないようにするかを課題としています。

課題を解決するため、人や組織や機関とのつながりを増やし、その1本1本の線を太くする必要があり、セーフティネットの網の目からこぼれ落ちない体制を作らねばならず、より細かいネットワーク作りのため絶えず地域に出向き、住民との交流により点を線に変えることが必要と考え、取り組んでいます。

総評

全体的にバランスよく取り組むことができています。

職員のスキルアップのための取組(研修計画の策定、研修内容の共有、記録の保管等)について、不十分な点が見受けられましたので、今後さらなる取組みが望まれます。

好事例

○苦情解決の対応について、「申し送り事項シート」作成するなどにより、再発防止策がスムーズかつ確実に実行できるように業務の見直しが行われています。

○総合相談における初期段階の対応について、「独居高齢者の緊急時対応手順」を定めることにより、複数職員のいない場合であっても対応できる体制が整備されており、わかりやすい対応フローとなっています。

○介護予防ケアマネジメントにおいて、個別性のある計画の作成という観点から、「ここから宣言」シートを用いて、本人のやる気を引き出す取組を行っています。